

発刊によせて

今日、社会はかつてない速度で変化を遂げつつある。特に若者の価値観の多様化は顕著であり、「安定した大企業への就職」を最終目標とする人生設計に代わり、自ら事業を興し、新たな社会価値を創造しようとする志向が目立つようになってきた。学生の中には、仲間と共に起業し、世界を舞台に活躍したいという明確な夢を抱いて学びに臨む者も少なくない。こうした現象は、現代の高等教育にとって新たな課題であると同時に、大きな希望でもある。起業や社会的挑戦に必要とされるものは、単なる知識や技能にとどまらない。それ以上に重視されるのが、思いやり、共感、責任感、協調性、そして困難を乗り越える力といった「人間力」である。これは単なるスローガンではなく、人生を力強く生き抜くうえでの実践的な基礎であり、現代社会における「人間の教育」の根幹をなすものである。

本学・東日本国際大学は、「人間力の育成」を建学の精神として掲げてきた。知識の伝達を超えて、人間としての成長を促す教育こそが、真に社会に資する大学の使命である。東洋思想研究所は、この理念を学術的に体现する拠点として、東洋と西洋の思想的対話を通じた「共生の知」の創出を目指して活動を続けている。

近年の動向として特筆すべきは、二〇二四年の十二月、いわき市および本学を運営する学校法人昌平齋が、国際連合訓練調査研究所（UNITAR）と協定を結び、本学キャンパス内に「CHEALジャパン国際研修センター」が開設されたことである。これは、日本国内では初となるCIFALネットワークの拠点であり、国際連合が推進する持続可能な開発目標（SDGs）の達成に資する人材育成と、地域社会との連携を図る画期的な試みである。

福島・いわきの地から世界へとつながる教育・研修の拠点が生まれたことは、本学にとっても、また本研究所にとっても、今後の大きな展望を開くものである。

さらに、二〇二七年度には「デジタル創造学科（仮称）」の開設が予定されている。AI・ICTの活用力と創造的思考を融合し、次世代の社会的課題に挑む人材を育てることを目指すこの新学科においても、人間としての責任感、倫理観、共感的思考といった人間力が、その根幹をなすことは言うまでもない。

東洋思想研究所は今後も、東洋的な生命観・倫理観・共生思想を、現代社会の課題と接続する知の力へと昇華させ、教育と研究の両面から人間力の涵養に資する学術的営為を継続していく所存である。宗教・哲学・文化・倫理といった知の伝統を尊重しつつ、地域と世界の懸け橋となる知の創造に努めていきたい。

本紀要『研究東洋』は、こうした本研究所の知的探究の成果を広く社会に問いかける場である。本号に収められた多様な論考が、読者諸賢にとって思索と対話の一助となることを願ってやまない。

令和八年二月

東日本国際大学
東洋思想研究所長

松 岡 幹 夫